

令和2年度

市民ライター養成講座 修了作品集



市民ライター養成講座

第1回 9月18日(金) 「市民ライター活動の楽しさを知る」

第2回 9月25日(金) 「ペアインタビューで取材体験を試みる」

第3回 10月2日(金) 「取材時に起こることを仮想体験してみる」

第4回 10月9日(金) 「取材先を決める」

第5回 10月30日(金) 「記事の進捗を共有する」

第6回 11月6日(金) 「書いた記事をみんなで編集する」

講師



特定非営利活動法人森ノオト

北原まどかさん

特定非営利活動法人森ノオト理事長。暮らしの足元から持続可能な社会を創造しようと2009年11月にウェブメディア「森ノオト」を創刊、編集長に。市民ライターを育成し、メディアを軸に地域と人をつなげながら、まちづくり事業を行っている。著書に『暮らし目線のエネルギーシフト』(コモンズ、2013年)。

府中市の歴史を知る

府中市観光ボランティアの会



1. お話を伺った、とっても優しい笑顔の高橋さんと宮川さん（大國魂神社にて）2. ボランティアガイドさん大集合！（写真提供：メンバーの筒井椿さん）3. 東京駅・江戸城でのガイドの研修風景。ときどき遠出もして勉強しています（写真提供：メンバーの横田和三さん）

武蔵野の国府のあった場所、長い歴史を持った府中市を、ボランティアでガイドをする団体の副代表、高橋萬年（かずとし）さんと、ガイド歴 3 年の宮川健吾さんに、ボランティアガイドの魅力についてのお話をうかがいました。

歴史あふれる府中を知ってもらうことを目的に

府中観光ボランティアの会は 2007 年に立ちあがりました。以来、武蔵野国府であった、歴史の深い府中の町を中心に、現在では 24 名のボランティアガイドがツアーを続け、私たちに府中を紹介してくれています。活動のメインは、およそ 2 時間の市内観光ミニツアー 4 コース。コロナでツアー自体は休止中ですが（2020 年 11 月 2 日現在）、現在は感染症対策をしながらのツアー運営の仕方を模索中とのことで、この記事がでる予定の 2021 年には再開できていることを願っています。

楽しさいっぱいのボランティア活動

撮影のため、大國魂神社を歩いているときも、高橋さんが説明をしてくれます。「ここが府中の太太鼓を入れておく場所で、今も朝と夜に太鼓を鳴らしているのですよ」とか、「今は休憩所となっている場所は、実はかつては御供所（ごくうじょ）と呼ばれ、神様への供物を整えていた場所です」などという情報にふれました。知りたいと思ったら、とことん掘り下げて調べる高橋さん。さらに何うと、ガイドの皆さんは、消防庁の救命講習の研修も受講しているとのことで、緊急事態が発生した時の対応をきちんと整えているそう。

ボランティアガイドは退職した方が多く、高橋さんと宮川さんも、退職後にこの道に入りました。「ボランティアガイドになって、良いことづくめですよ」とお二人がお話してくれました。「自分の知識が日々蓄積されて増えていくことが嬉しいし、参加された皆さんが喜んでくれるのがまた嬉しい。そこには新しい人たちとの出会いがあり、その糸が繋がれていくことが、楽しい」さらに、「頭も足もしっかり使うので、ボケている暇ありませんよ」と。これは、確かに良いことづくめですね。

府中市民全員に参加してもらうのが夢

今年は緊急事態宣言が出て遠出ができなくなった日々の中、自分が住む市に目を向けると、こんなにも歴史があって、自然がいっぱいの場所だったのだ、と思って、私は府中市民であることが誇らしくなりました。お二人の夢は、府中市に住む市民全員に、一度はミニツアーに参加してもらうことだそう。そのために、今はこちらのちらしをリニューアルして、これまで以上に配布をし、4 つのミニツアーに来てくださった方には、記念品をお渡しするなどの様々な工夫をこらしています。さらには、障害のある方へのガイドや、外国人へのガイドなども含め、活動の幅を大きく広げようと努力を続けているとのことでした。皆さん、ぜひ、私たちの住む町府中、観光ボランティアガイドさんの元で、府中を知るツアーに参加してみてくださいね！

取材・文：池上 悦子

Information

ツアーに関するお問い合わせ：
MAIL kengo_fuchuu@yahoo.co.jp

人と動物が幸せに暮らす社会へ 地域猫活動がつくる共生のかたち

府中市環境政策課認定
猫ボランティア団体
猫にゃんネットワーク府中

代表 篠崎 薫さん



1. 市と協働する認定ボランティアの篠崎さん。不妊去勢手術の協力、地域猫に関するアドバイスなど、経験に基づく支援活動をおこなう 2. 適切な餌やりには、ゴミ漁りや家屋侵入などの被害をなくすメリットも 3. 手術を受けた証に、耳先を小さくカット。誤って再び開腹手術されるのを防ぐため、その形状から「さくらねこ」とよばれる (2.3 写真提供：猫にゃんネットワーク府中)

飼い主のいない猫の問題はつらい、でも、きっと無くなることはない。そう目を背けてきた私は「地域猫活動」という言葉に何か希望を感じ、「知らなくちゃいけない」という気持ちに駆られて篠崎さんを訪ねました。

地域が主役の活動

地域猫活動とは、飼い主のいない猫への対策として府中市も支援する取り組みのこと。「地域猫」としてきちんと不妊去勢手術をした上で、適切な餌やり、トイレ管理などをおこなって世話をしながら、一代限りの命を地域で見守る活動です。

篠崎さんが地域猫活動を啓発するのは、不遇な猫の存在やそのトラブルに対する根本的な解決を見据えているから。手術をしてもその猫が「飼い主のいない猫」であることは変わらないし、すべての猫を保護することはできません。けれども地域の人々が当事者として地域猫活動を理解し協力し合えば、それは長期的な対策として解決を目指すことができるのです。

例えば、外で猫に餌をやる人を責めるのではなく、お世話を「お願いする」という姿勢で支援。一方で猫に手術をせず放し飼いにしている人に対して、望まれない繁殖やトラブルの可能性を伝え改善を促します。そうすれば今ある命は守られながら、新たに生まれる猫の数は減っていく流れができます。地域で問題を共有することで、猫にまつわる対立や孤立も減り、人同士の穏やかな関係性にもつながります。

飼い主としてできること

地域猫活動がしっかりと実を結ぶためには、「猫を飼う人側の意識が変わることも必要」と篠崎さんは考えます。猫は繁殖力の強い生き物。かわいいからと放し飼いや無責任な繁殖を許容してしまえば、いくら活動を頑張ってもそれは「終わりなき闘い」になってしまいます。

「動物の愛護及び管理に関する法律」ではペットの適正飼育にも触れており、その中で終生飼養や繁殖制限についても求められています。飼い主として法律を正しく知り、猫を迷惑と思う人にも留意して飼育マナーを守る。それは周囲の人や衛生環境への配慮であると同時に、猫を「嫌われ者」にしないための配慮にもなるのです。

命にやさしい共生社会

今後は他ジャンルの団体とのコラボイベントなどで「情報発信の間口を広げていきたい」という篠崎さん。ひとりでも多くの人々が地域猫活動を知って理解の輪が広がるように、次なる活動を模索しています。その発想力と行動力がたくさんの想いとつながって「府中犬猫まつり（仮称）」が実現し、当日はみんなが飼育動物について考える……いつかそんな日がくるかもしれません。

取材の後日、小柳公園で2匹の猫を見かけました。その健康そうな姿に安心し、見えない「餌やりさん」にそっと感謝。それから篠崎さんが自らの目標と話した「地域猫活動の正しい浸透と、“今いる猫に餌やりしたっていい”社会」という言葉を思い出し、想像をします。

人と人が互いの考えを認めながら、不遇な命を増やさずに、今ある命はひとしく大切にされる共生社会。

わたしたちの府中市も、そんなやさしい街であるように。

取材・文：伊藤 薫

Information

「猫にゃんネットワーク府中」の活動、保護猫譲渡会のお知らせ、支援受け付けなどの情報は、団体 HP でご覧いただけます

H P <https://nnnfuchu.amebaownd.com/>

選ぶことから始まる地球に優しい生活



多摩南生活クラブ まち府中

担当理事 牧野 明美さん



1. ご時勢柄、牧野さんにはオンライン会議システムでインタビューさせていただきました 2. 風車「夢風」3. 生活クラブでは、リユースやリサイクルの仕組みが確立されています (2,3 画像提供：生活クラブ)

今回、環境問題に取り組んでいらっしゃる多摩南生活クラブ生協の理事の牧野明美さんに、生活クラブの取り組みから、生活クラブの組合員でない私でも明日から始められる環境に負荷のかからない生活のヒントを探します。

私にできることは？

府中市は長野県佐久穂町と「府中市と佐久穂町との地球環境保全のための連携移管する協定」に基づいて、家庭ごみの焼却など市民生活から排出される二酸化炭素相当量の一部を佐久穂町の森林を整備することで帳消しにさせるカーボンオフセット事業をしています。

この話を聞いて、「本当に帳消しになるの？」「この事業に頼るだけで良いの？」「私自身が二酸化炭素排出をできるだけ減らした生活はできないの？」と疑問に思い、長年、生活クラブで食や環境問題について活動されている牧野さんにお話を伺いました。

再生可能、継続利用可能な物を選ぶ

生活クラブでは、エネルギーの使用を「減らす」、再生可能エネルギーを「つくる」、再生可能エネルギーを「つかう」を掲げ、秋田県にかほ市に「夢風」という風車を1機所有しています。この風車だけですべての電力を賄えるわけではありませんが、その他の再生可能エネルギーと併せて、組合員向けに電力を販売しています。つまり、日々使う電力を選ぶだけで、二酸化炭素を排出する化石燃料には頼らない生活ができるのです。

また、生活クラブで取り扱っている食品や調味料の内、多くのものが繰り返し使用できるリユースびんで販売されています。牛乳もびんで提供されており、50回以上リユースされ、ワンウェイびんよりも圧倒的に環境への負荷を少なくすることができるそうです。ただし、びんの回収率が悪くなると、新しいびんを購入する必要がでたり、リサイクル費用を負担しなければならなくなったりしてしまいます（容器包装リサイクル法：9割回収が必須）。

逆に言えば、購入した食材のびんを洗って返却するだけで、リサイクル費用の負担もなく、結果的にお得なお買い物になるのです。

毎日のお買い物で環境負荷を減らす

では、こういった環境に負荷のかからない生活は、生協の組合員でないとできないのでしょうか？実は、組合員でない私にも毎日のお買い物から取り組めることがあるんです。例えば、地域の農家さんの野菜を買うと、それだけ野菜の配送に必要な化石燃料を減らしたことになります。また、多少見た目は悪くても、農薬使用量の少ない食材を買うという選択も、土壌汚染や農地の荒廃を食い止めることになり、健康被害を減らすことにもなります。自ら表立って環境問題に取り組むことにハードルを感じている方もいらっしゃるかもしれませんが、買うものを選ぶだけならば、無理なく始められますよね。

選ぶことで始める地球環境への負荷を減らした生活。皆さんも、今日のお買い物から意識してみてはいかがでしょうか。

取材・文：小川 理恵

Information

生活クラブ

H P <https://seikatsuclub.coop/>

生活クラブ まち府中

facebook <https://fb.me/seikatsuclub.fuchu/>

MAIL machifuchu@gmail.com

食べて府中の農家を応援したい 生きる自信がつく暮らしを

トランジションタウン府中



1. 「府中はたけ日和」2020 夏秋号。地産地消応援団を募集中！ 2. 代表の荒川紀子さん 3. 冊子は、公共施設や協力店舗など市内 100 箇所以上で配布。浜喜屋(くるる)、ゆめたま(多磨霊園表門前)ではバックナンバーも配布中 4. 府中市農業まつりにて、缶バッヂ作成のワークショップを実施(1,4 写真提供: トランジションタウン府中)

読者の皆さんは「府中はたけ日和」をご存知ですか？私は自治会回覧板で出会い、素敵な作りに一目惚れ。なんと市民ライターが取材・編集・発行しているそうです。また発行元は、世界各地に広がる市民運動の一つでもあります。詳しくご紹介していきます。

府中野菜を食べたくなる「府中はたけ日和」

ある日、ふと覗いた農家の無人販売所で買ったブロッコリー。夫と二人で今まで味わったことのない美味しさに驚いていたところ、回覧板で「府中はたけ日和」の存在を知りました。冊子を手にとると瑞々しい野菜の鮮やかで美しい写真がまず目に飛び込んできます。農家さんの野菜づくりの信条や人柄がわかるエピソード、出荷先や食材として使用しているお店の紹介が載っていて、ぜひ食べてみたいとワクワクしました。私は引き込まれるように読み、どんな方が作られているのかとても興味を覚えました。発行元の団体名にある「トランジション」とは「移行」を意味する英語です。脱炭素社会や持続可能な暮らしを目指す、イギリス発祥の地域活動です。日本には 50 か所以上あり、府中では 2012 年 2 月に活動を開始しました。代表の荒川紀子さんにお話を伺いました。

「府中はたけ日和」の始まり

東日本大震災の時、荒川さんは流通が止まったことに危機感を覚え、「食材を自分たちのものに取り返していく作業をしたかった」そうです。そんなとき、創設間もないこの団体に参加しました。創設メンバーの何人かは地方に移住したため、荒川さんが代表を引き継ぎました。畑のある風景が気に入って、10 数年府中に住む荒川さんは、「府中には幸い畑があるから、頑張って農家さんを応援しよう」と、2016 年に冊子の創刊に至りました。荒川さんは広報の経験者で、現在は冊子の活動が中心です。冊子は今年、府中市市民活動応援助成金が満期終了となり、さらに新型コロナウイルスの影響で協賛店も減り、資金集めに奔走しています。取材時もクラウドファンディングの立ち上げに苦労されていました。荒川さんは「次の号を楽しみにしてくれている人たちのためにも、年 3 回の発行だけは何とか続けていきたい」と話されました。

生きることの基本「食べる」ことで府中の農家を支える

実は、府中には野菜だけではなく、果樹園や養鶏場、水田もあります。荒川さんは多くの生産者との出会いを通じて「もし地震などで物流が止まっても、食べることは困らない、という自信がついた。だから日頃食べて農家を支えていきたい」と考えています。また地産地消は輸送エネルギーの節約になるそうです。「エコに暮らすには食を変えることが一番だけれど、他にもできることはたくさんある」と荒川さん。団体のホームページには多彩な活動の様子や、持続可能な未来に向けて、私たちが実践できそうなヒントも載っています。私も何かできることをと思い、近所の農家のおじさんからブロッコリーの苗を買い、育て始めました。今から収穫がとても楽しみです。

取材・文：亀谷のりこ

Information

トランジションタウン府中

H P <https://ttfuchu.jimdofree.com/>

MAIL tt.fuchu@gmail.com

T E L 090-9290-1454 (荒川さん)

facebook <https://fb.me/TTfuchu/>

府中はたけ日和 <https://fuchufarmfans.jimdofree.com/>

子どもの探究心と創造性を育むことによって自分自身をつくる未来につながる

科学体験クラブ府中



1. 東京学芸大学で開催された「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井。タカラ貝でのストラップづくり 2. イベント企画部の水津重雄さん 3. 研修会の様子 (1,3 写真提供 水津重雄さん)

科学体験クラブ府中は子どもたちに科学に興味をもってもらうことを目的とした市民団体です。府中市内外で「つくって楽しい科学工作」の指導等を行っています。イベント企画部の水津重雄さんに話を聞きました。

継続的なイベント実現のために発足

1998 年に府中市で行われた「青少年の科学体験まつり」をきっかけに、財団法人日本科学協会が主催で、地域社会の大人が科学体験の指導者になるための講座を 2 年間で 70 回ほど実施しました。100 円均一の素材で楽器をつくったり、七輪で焼き物をつくるなど、大人でも楽しく、面白いと思えるような講座だったそうです。その時の受講者を中心に、2001 年に科学体験クラブ府中が発足。科学と言うと何となく男性が多そうという気がしますが、科学体験クラブ府中在籍の会員は意外にも女性が 7 割ということで、当時のイベントがいかに興味深いものであったのか想像できます。

夢中になれる作品づくり

工作の作品数は累計 300 もの種類があります。万華鏡であったり染め物だったり。ある時は高学年くらいの男の子がピカピカの泥団子づくりにハマって、より完璧な物をつくるために数時間留まることもあったそうです。それだけ子どもがのめり込めるような工作の種類があるということ。つくったものは持ち帰れるようになっていて、幼児から大人までイベントによって幅広く参加できます。

月に 1 度団体会員向けに研修も行われています。新しいアイテムの習得、イベントの円滑さや、安全性、参加者により楽しんでもらえるようなスキルアップを目的としています。

さらに、団体にも興味を持ってもらえるように、大人のための科学工作も行っていて、その際には、ガラス細工など普段はできないような高度な工作もしているそうで、機会があれば私も参加してみたい! と思いました。

これからもまた子どもたちに向けて

新型コロナウイルスの影響で感染対策が重要になり、子どもたちと、直にふれあい、各々に向き合い交流してつくってきた工作のあり方を変える必要が出てきました。

そんななかでも「子どもたちが楽しんでくれることが続けられる理由だ」と話してくれた団体会員向けの研修で講師もしている水津重雄さんは、工作の図解や動画など新しいガイドラインを作っています。

11 月からは密を避けるため、子どもだけでも参加できるように、小学三年生からなど対象を絞りながら、文化センターでのイベントを少しずつ始めていくそうです。

私は、子どもが新しい知識を得た喜びを積み重ねていくことは将来につながるとも価値のあることだと思います。

これからも、魅力的な科学工作で子どもたちを夢中にさせてくれることを期待しています。市や、学校、文化センターでのイベントがある時にはぜひ参加してみてくださいね!

取材・文：川島 清夏

Information

『科学体験クラブ府中』

科学工作イベント 年間 65 回程度

各文化センター、市、学校主催など。

H P <http://kagaku-fuchu.jimdo.com>

春と秋、緑あふれるお庭にオープンする 非日常を楽しむ空間



コミュニティガーデンカフェ 「きゅ庵」

代表 桑田 厚子 さん

心と体をリフレッシュさせる場になればと、癒しや手当の意味の Cure (キュア) から名付けられた「きゅ庵」。専業主婦の桑田厚子さんがどのようにして地域の方たちの居場所をつくったのか、お話を伺いました。

1. 代表の桑田厚子さんは様々な市民活動に積極的に参加 2. 春と秋、年2回行われるフラワーアレンジメント講座は毎回人気 3. カフェやイベントの開催日には入口に可愛い看板がかけられます

主婦の経験を活かして

「例えば、もし私が英語を話せたら違ったかたちになっていたと思います」と話す桑田さん。桑田さんが「きゅ庵」をやろうと思ったきっかけは、府中市が2012年にに行ったコミュニティカフェ講座への参加だったそうです。特別な資格やスキルがなくても主婦としての経験を活かせるのではと、同様の講座にさらに3ヶ月ほど通い、1年後を目標に自宅のお庭でカフェを始める準備にとりかかります。

「他の人に何か協力してもらおう時、ただの主婦よりもちゃんとした肩書があった方が信用してもらえると、府中市の福祉のまちづくり推進審議委員に応募して名刺にのせる肩書をもつことから始めた桑田さん。お庭には水はけがよく、しっかり固まる土を使用し、通路の石組みにも手間をかけたそうです。時間をかけながら、一つひとつの問題をクリアして、2013年の春、コミュニティガーデンカフェ「きゅ庵」をオープンします。

コンセプトは非日常

「文化センターなど公共の施設が近くにあり、地域の方の居場所がそれなりにある立地で似たようなものをつくっては意味がない」と、桑田さんは自分なりに非日常の演出を考えます。

「ここでは肉じゃがはださない」と言うのもそのひとつで、ランチでは、例えばタコスのような、知ってはいても家ではあまりつくらない料理をメインに、盛り付けや器にこだわってお出しするそうです。そのおもてなしを気に入って3週連続で来られたお客様もいたとか。

また、ガーデンカフェの特性を生かした梅もぎイベントや、お庭のハーブなどを材料に使ったフラワーアレンジメント講座、その他にもハーブやおカリナのコンサート、ソムリエの方を呼んでのカクテル講座や、落研の方の落語会など多岐にわたる企画もしています。

さらに、カフェ以外の場所でも「きゅ庵」主催で視覚障がいや発達障がいの方たちの交流の場を提供し、退職後のシニア男性を対象とした居場所づくりでは料理教室の他に里山体験などを行っています。

それぞれが楽しめる居場所を

「利益を出すためにやっている訳ではないので無理はしません。大変なのは頑張ればいけど、つらくなったらやめます」と明るく話す桑田さん。それでも「自分やスタッフ、ボランティアの方が楽しめて、お客様が喜んでくださるうちはやるつもりです」とも続けました。

今後のランチの提供はコロナの状況で判断するそうですが、月1回のイベントは継続し、できればスイーツなどを提供したいとのこと。また、こんな状況だからこそガーデンカフェという開放空間を生かし、会議室代わりなどに利用してもらうことも考えているそうです。

自然体でありながら驚くほど行動力のある桑田さんとお話して、私自身も誰かを笑顔にする居場所づくりに興味が湧きました。

「きゅ庵」は、これからもその時々合った形で、様々な人たちが楽しめる居場所を提供してくれることでしょう。

取材・文：崎山 美穂

Information

住 所 府中市片町2-13

T E L 042-306-8757

H P <http://cure-an.com>

営業日 毎週木曜日 11:30～14:30 完全予約制

休業日 夏季・冬季休業、雨天休業

「自助」時代に船出するには 暮らしの「羅針盤」が必要です

女性と市民のための FP 研究会



1. セミナー開催案内のポスター（提供：女性と市民のための FP 研究会）
2. 当日の会場風景
3. 代表の長曾我部静枝さん

新型コロナ後、暮らしや働き方どうなるのでしょうか。急に、まずは自助っていわれてもね。でも共助・公助を含む「お金のこと」、結構充実しているのが府中市。知らないと損しますよ。頼りになる勉強会をご紹介します。

FP 研究会を立ち上げた理由

とかく「お金の話」は苦手ですね。それでは困ると、2022 年度から高校で「お金の授業」が開始予定です。FP 研究会代表の長曾我部静枝さんは、「ようやくここまで来たかと思います。私たちはとくに『ちびっ子マネー教室』を開催して好評でしたし。この会が誕生したのは 2002 年 7 月。府中の市民活動グループとしては老舗です。長曾我部さんが府中市在住の FP(ファイナンシャル・プランナー)の有志と立ち上げたのがこの会。目的としたのは「少子高齢化を迎える時代の中で、市民一人ひとりが安心してライフプランを創造できるように、マネープランやリタイア後のプラン等を社会の変化に対応しながら研究し、それをもとに府中市での活動を広めること」。活動の中心はセミナーの開催と伺いました。

実際にセミナーに参加してみました

2020 年 10 月 17 日、『いいきき老後のくらしとおかねの 1DAY セミナー』が折よくあると伺って取材に。場所は「府中男女参画センター『フューチャー』」。セミナーは次のように 3 部構成で行われました。

- 第 1 部「いつかは必ず来る! おひとりさまの老後その心構えと準備」
講師は代表・長曾我部静枝氏
- 第 2 部「間違いだらけの投信選び老後資金形成の要、投資信託を科学する」講師は立川 FP 事務所代表・向藤原寛氏
- 第 3 部「気になる老後資金その前に年金について知っておこう」
講師はマネーライフ・ラボ三鷹代表・伊達寿和氏

この日は三密対策で参加者は 15 名限定のため、ZOOM 中継にも初挑戦されていました。私は午前中の第一部を取材。「おひとりさま」は女性のテーマと思われがちですが、実は男性の問題として急浮上しているという話からスタート。データ駆使する本格的な講義で、私もまさに渦中にあるため、大変勉強になりました。ZOOM では第 3 部を受講。「人生 100 年時代」はともすると「長

生きリスク」にもなりかねないと、まずご指摘。老後資金不足をどうするか、介護や認知症にどう備えるか等々、対処法やアドバイスが身に沁みました。

皆さんの「羅針盤」になれるようがんばります

戦国武将と同姓の長曾我部さん、もちろん元親の大ファンだそうですよ。それでは最後に、今後の抱負について。「引き続き、市民の方の金融リテラシー向上に貢献したいと思っています。その必要性をますます実感してますのでね。ほんの少し前まで貯蓄に精を出せば老後はなんとかあったのに、20 年後の今、皆が羅針盤もなしに金融の荒波に放り出され始めています。誰を信じればいいのかと迷っておられる市民の方々に、公正公平な立場で本当に必要な情報を提供したいと思っています」。

取材・文：シニア・のこ

Information

セミナーは年に数回程度
個人相談は常時受付
女性と市民のための FP 研究会 代表 長曾我部静枝

MAIL chosan@lvft.jp
H P <http://kagaku-fuchu.jimdo.com>

本物を体験できる場所、 みんなで面白がれる場所



1. 府中子ども劇場の三神恵子さん（左）と中村久美さん（右） 2. 会員の希望ではじめた南京玉すだれは市内の施設などから出演依頼がくるほどの腕前になりました 3. 府中ふれあいこどもまつりの会場（2,3 写真提供：府中子ども劇場）

府中子ども劇場

府中子ども劇場では生の舞台鑑賞、キャンプやお楽しみ会などを中心に親子で楽しめる幅広い活動を行っています。府中子ども劇場会員の三神恵さんと中村久美さんにお話を伺いました。

生の舞台を体験できる身近な場所

子ども劇場の設立は、1966 年に遡ります。テレビに釘付けになる子どもの姿を見て、生の体験の機会が失われると心配になった親たちが福岡で立ち上げました。劇団を地域に呼んで親と子で生の舞台を鑑賞すること、異年齢の子どもたちがキャンプやお楽しみ会など自分たちのやりたいことを通して交流することを 2 つの柱で活動しています。活動は全国に広まり、府中子ども劇場は 1980 年に始まりました。

「府中子ども劇場では、実際の体験を大切に、目の前の舞台で起こる生の関係を親子や友達と一緒に体感してほしい。」と中村さん。自分も育児中に子ども劇場の活動に救われたようで、「こういう場を府中で提供していきたい。」と話します。

子どものための活動の中で、親も楽しみ成長していける場……
府中子ども劇場はそんなところだとお二人は言います。

否定しないでやってみる

毎年 3 月に開催される府中ふれあいこどもまつりで上演する舞台を企画することも活動の一つです。子どもが楽しめる舞台は誰が見ても面白い舞台。そういう舞台を提供してくれる団体を探して出演交渉を行います。子どもたちに舞台を届けたい団体と、素敵な舞台を多くの親子と一緒に観たいと考える子ども劇場で協力して、公演の準備を進めています。当日会場に来られない子どものために保育園や幼稚園に劇団を派遣するアウトリーチ活動にも力を入れているとのこと。各団体と作り上げてきた信頼関係があるからこそできる活動です。「子どもにこそ本物を提供したい。本物に触れることが子どもの心を豊かにする」。そんな思いでアウトリーチ活動を行っています。

府中子ども劇場では舞台鑑賞の他にも会員がやりたいことを「全て否定しないでやる」そうです。紙芝居の読み聞かせ、南京玉すだれ、ジャグリング、マジックなど個人のやりたいことをみんなで形にします。

「なんでも面白がろうとする、子どもたちにそういう大人になってほしい。」とお二人は話します。

正しく学んで工夫して続ける

2020 年の夏は、新型コロナウイルスの影響で毎年行っている神奈川県相模原市藤野でのキャンプが中止になりました。何か楽しいことがしたい！という会員からの声で 8 月にランタン作りを行いました。久しぶりにみんなで一緒に創作をして、作る喜び、集う喜びを感じたそうです。

コロナ禍での今後については「全て停止しては心が萎えてしまう。やりたいことを続けるための正しい方法を学んで、工夫して続けたい。」と三神さん。疲弊しがちな状況下、出来る範囲で楽しさや喜びを共有する場の大切さを私は感じました。

「自分たちの思いを若い世代につなげたい、府中子ども劇場での活動が本当に楽しいということを伝えたい。」と語るお二人。府中子ども劇場では会員を募集しています。最後にお二人からメッセージです。

「あなたのやりたいこと、叶えます！」

取材・文：鈴木 アサコ

Information

府中子ども劇場

対象者：3 歳～大人

会費：1000 円 / 月 3 歳以上

MAIL kodomowakuwaku@gmail.com

府中で七つの海をひとつ飛び



1. ウズベキスタン人を招いての授業の様子 (写真提供: Saeko さん) 2. 下郡祐次郎先生 (写真提供: 下郡祐次郎さん) 3. 外国人観光客おもてなし職員アニカさん (写真提供: アニカさん)

ななかん

「ななかん」は、府中市内で、児童の養育が十分に出来ない方（特にひとり親家庭など）を対象に、無償で英語の授業を提供したり、市民に向けた講演や異文化交流をテーマとした活動を行っている団体です。楽しく英語を学べるイベント、花火大会、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティーに、折り紙や歌などを通して、今まで習ってきた英語を活かす力を、楽しく前向きに身に付けていけるようにプログラムを運営しています。

外国人3人に街で声をかけたら授業料1回免除？

「ななかん」代表の下郡祐次郎先生の授業や講演は『ステイホームはくそくらえ！～共存とその先の世界～』など、ユーモアセンスにあふれています。笑って、そして前向きな気持ちにさせてくれるとても楽しい内容です。私は2019年夏に先生に出会いました。来日中の外国人に気軽に声を掛けられる設定の授業『おもてなし英会話』。ほんの一例ですが「街で出会った外国人3人に声をかけることが出来たら授業料1回免除」という提案は秀逸でした。単純な私はまんまとその手腕に乗せられ、東はカナダ、アメリカ、グアテマラ、西はイギリス、スペイン、オーストラリア、エジプト、イラン etc…北はロシアに南はオーストラリア。延べ30人には声をかけることが出来ました。東アフリカのエチオピアと西アフリカのガーナの方々が口を揃えて「TOKYOはアフリカより暑い！」と言ったのには驚きました。ウズベキスタン人の留学生を授業に招待した際には、母国の話をして楽しい時間を共に過ごしました。バングラディッシュのご婦人は初対面である私に母国のスパイスの効いたとても美味しい手料理を振る舞ってくださり、私は大感激でした。

思いがけない出会いのチャンスを与えて下さった下郡先生には感謝しかありません。私は外国人と接する度に、心は海を飛び越えて彼の地へと向かいます。地球を俯瞰している気分になれるのです♪

ふちゅう、だいすき、アニカさん！

そうして知り合えた外国人の一人が、ポーランド人のアニカさんです。2017年の10月に来日し、市内の小中学校で外国語指導助手として過ごしている間に府中の虜になってしまったそうです。他市への異動依頼を断り、府中に住み続けたい一心で市役所へ赴き「ふちゅうがだいすきです！わたしにしごとをください！」と直談判し、ちょうど外国人観光客へのアプローチを検討していた現在の観光プロモーション課へ案内され、面接試験を受け、見事に「外国人観光客おもてなし職員」として採用されました。Congratulation！

市内各地を駆け巡り取材をし、府中の良さをインターネットで発信するアニカさん。「この仕事に運命を感じている」と瞳をキラキラさせて言い切ります。「もし街で私を見かけたら、遠慮せず声をかけてほしい、あなたのように」と言われました。「ななかん」の姉妹団体であるセブンシーズ・ポジティブ英会話での学びが実を結んだ、喜びの瞬間でした。

日本人と、日本の文化を主体とした教授法

下郡先生はハーバード大学で修士学を取得、サンディエゴ州立大学で教育学の博士号を取得し、アメリカの大学の教壇に立ち、現在は東京外語大などで教鞭を取っている一方、市民へポジティブな講演や英会話を提供しています。お堅い肩書を持っていても常にスマイルを忘れません。

下郡先生は今後、「更に講演活動や、ひとり親家庭への英語教育も充実させ、市民への英語力向上を促進していきたい。異文化交流にも力を入れ、プチ留学プログラムも計画しています。」とのこと。尊敬するブラジルの教育者パウロ・フレイレの言葉「言語は文化で、文化は言語である」を大切に、英語で日本の文化を表現できるように学んでいく授業を、生徒同士がサポートしあい、市民が英語の表現力を身に付けていくよう、さらに「ななかん」らしく、もちろん楽しく展開していく予定だそうです。一体、どのような授業が待ち受けているのか、私はわくわくが止まりません！とても楽しみです♪あなたも、ぜひ一緒に体験してみませんか？

取材・文：Sumie

Information

「ななかん」（府中市市民活動センタープラッツ登録団体）

MAIL imfo@sevensees.org

H P <http://www.nanakan.bravesites.com/>

福祉の域を超えた芸術教室 「マーシーアーティスト」



1. マジックやクレヨンなどの一般的なおえかき道具のほか、見慣れないプロ仕様の画材も
2. 音楽教室には本格的なアップライトピアノ。壁面には本部でつくっている「さをり織り」のボードもありました
3. 季節に合わせた作品制作をしている美術の教室。取材した10月にはハロウィンをテーマとした作品が教室を彩っていました
4. 開放的で明るい室内。窓には児童が描いたお花が咲いていました

NPO 法人 響愛学園

NPO 法人 響愛学園が運営するマーシーアーティストは、3～18歳の障がいを持つ未就学児・就学児を対象に芸術を通じた療育をおこなっている施設です。管理者の関香代子さんに話をうかがいました。

プロフェッショナル講師のレッスン

NPO 法人響愛学園は、愛知県で幅広い芸術事業を展開している福祉施設です。理事長と関さんの個人的なご縁によって2019年12月に東京都府中市にて新事業所マーシーアーティストを開設しました。他の多くの福祉施設との違いは、音楽大学・美術大学を卒業した講師から専門性の高いレッスンが受けられること。施設内を見学すると、音楽教室には本格的なアップライトピアノ、美術教室には一般の文房具店では見かけないような珍しい画材がありました。「プロフェッショナルがしっかり教えている福祉施設は全国的にも珍しいんですよ」と話してくださった関さん。自信と誇りをもって運営されているように感じました。「うちの子は全然絵が描けないんです」と言われて入所した児童でも、適切な指導を重ねていくうちにみるみる絵が描けるようになり、保護者のみなさんも驚かれるそう。

参加することで応援できる

私のような専門知識のない地域住民にもなにか参加できることはありますか？とお尋ねしたところ、「ぜひコンサートやアート展などのイベントに来てください」と言っていただきました。福祉施設のイベントは鑑賞者のほとんどが保護者・親戚などの関係者なのでは？と少し内輪の場所という印象がありましたが、全くそんなことはないそうです。「たくさんの人に観てもらったという経験が、児童本人はもちろん保護者の励みにもなるんです。保護者の喜びが児童の喜びにも繋がるんですよ」と関さんに教えていただき、鑑賞することにとっても意義を感じました。そしてつい児童に焦点があたりがちだったことにも気づかされました。サポートしている保護者の方々へのエールの気持ちも込めて、私も今後は積極的に福祉イベントへ参加していきたいです。

2020年は新型コロナウイルスの影響でイベントが中止になりましたが、2021年7月にはルミエール府中でコンサートとアート展のイベントを予定されています。ぜひ市民のみなさまもご家族やお友達を誘って足を運んでみてください。

教室拡大の未来

マーシーアーティストは本格的な芸術教室でありながらも児童福祉法に基づく福祉施設です。そのため国で定められた基準による利用者定員があり、現在すでに満員とのこと。それでも利用したい！と、申し込みをして順番待ちの人もいます。現在のスタッフは関さんを含む音楽講師3名・美術講師2名。今後規模拡大の予定はあるかお尋ねしたところ、「たくさんの人に興味をいただいているので、第2、第3の教室を広げていきたいなとは思っています。その際には音大・美大卒の講師を迎えたいですね」というお話が聞けました。講師としてご興味のある人はぜひ一度ホームページをご覧ください。利用希望者の見学は随時受付中。

取材・文：チバヒロコ

Information

NPO 法人 響愛学園

児童発達支援・放課後等デイサービス「マーシーアーティスト」

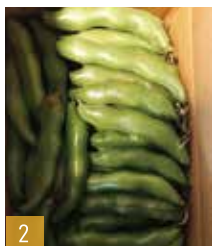
住 所 東京都府中市緑町3丁目6-1 エスポワール東府中 202

T E L 042-203-5388

H P <http://kyoai-gakuen.com/>

次回のコンサート・アート展は2021年7月18日（日）を予定。
（※社会情勢により中止・延期の可能性があります。最新情報はホームページ等をご確認ください。）

みんなが優しく幸せにつながる場を



みんなの食堂

代表管理人 藤田 潮さん

みんなの食堂は、2019年5月にスタートした子ども食堂。今年、誰もが予期せぬコロナウイルスの出現により活動自粛を余儀なくされました。そこからフードパントリー（食品などの無料配布会）へと形を変え、新たな支援の輪を広げたみんなの食堂代表・藤田潮さんに話を伺いました。

1. みんなの食堂を支えるスタッフの皆さん 2. 千葉の支援者から送られて来た箱いっぱいのそら豆。ある時はきのこなど、その時期に合わせた旬な野菜の配布もうれしい 3. フードパントリーの買い出しのために購入した台車。今では「マイカー」と呼んで愛用中。食材を集める時は、幸せな気持ちで疲れ知らずなのだとか 4. みんなの食堂の顔、藤田さん。持ち前の明るさは今日も健在

孤立をなくし、地域とつながるあたたかな子育てを

本業はフリーの研修講師を務める藤田さん。前職では子どもとも関わりの深い株式会社ベネッセコーポレーションに在籍していました。その頃は多忙を極め、自身の仕事と子育ての両立が厳しい日々でした。頼りたい両親は遠方にいて、友人たちは同じワーキングマザー…。その時“地域のつながり”が大事だと強く感じたといいます。2003年に退職してからも忙しさは続きました。

2018年、藤田さんは「こどもの居場所作り@府中」（市内で最も早く立ち上げられた子ども食堂）の代表南澤かおりさんと運命的に出会います。そして社会活動家の湯浅誠さんと呼ぶ講演会に誘われ参加しました。そこで、子ども食堂とはどんな環境の子どもたちも気軽に安心して集まれる場所なのだと聞き、開かれたイメージに心動かされました。

ある日、南澤さんの運営する子ども食堂を見学した際、障がいのある双子のお子さんとお母さんに出会いました。食事介助をしながら話を聞くと、そのお母さんは「子どもが生まれてから4年どこにも外食には連れて行ってなくて…。(公園なら気兼ねなく食べさせられるので) いつもは公園です」と言われたそうです。これを聞いた藤田さんは“私がもう1ヶ所子ども食堂をつくれれば…急がなきゃ！”と決意。こうして本格的にみんなの食堂設立に向けて走り出しました。そしてオープンの日、その親子さんも訪れてくれました。今では常連さんです。

コロナで変わった、次の形の関わり方

今年、突如出現したコロナウイルス感染症の拡大により食堂運営は自粛、急遽「フードパントリー」に活動をシフトしました。フードパントリーとは、様々な理由で支援が必要な人々に食料品などを無料で配布する活動のこと。私が藤田さんと出会ったのは、初めて足を運んだこのフードパントリーの会場でした。

「お茶でもして行ってね」と声をかけられた会場には椅子とテーブル、お菓子なども用意されており、とてもオープンな雰囲気です。驚きました。

当初フードパントリーの活動費は、各食堂独自の寄付募金などにより賄われていましたが、急遽、東京都から補助金が給付されるようになりました。(現在は市内在住のひとり親家庭で、原則児童扶養手当または就学援助費受給世帯が対象)

フードパントリーも大切な支援の形

子どもの学校が長期休校で給食もなくなり大変な時、私はこの支援活動を知り頼ってみたいと思いました。そこで本当に支えられたことを広く知って欲しいと、この取材を決めました。フードパントリーを通して、ただ物資を受け取るだけと思っていたところから「話を聞いて欲しい」など、訪れる人たちの気持ちの変化もあったと藤田さんは言います。「自分が子ども食堂の旗をひとつ揚げたことで、そして、フードパントリーの活動を通じて優しい人が集まってくれたことが嬉しく素敵なことだと思う」と、いつもの笑顔で語ってくれました。年度内はフードパントリーは行われますが、今後の情勢を見つまた子ども食堂の運営をメインにしていく考えとのことでした。

(※2020年11月時点では子ども食堂の運営再開／開催日時、場所など詳細は下記までお問い合わせください)

取材・文：戸田 憲子

Information

運営／みんなの食堂

代表管理人／藤田 潮

「みんなの食堂府中」で検索

T E L 090-8567-6188 (代表藤田宛)

MAIL ushiho78561@gmail.com

「府中を知らば、府中がもっと好きになる」 が合言葉



ママチャーリーズ

府中市内にはどんな公園がある？赤ちゃんが行ける場所は？即答できる新米ママやパパはどれほどいるでしょうか。子育て世代に必要な情報を届けようと、2008年に「ママチャーリーズ」を設立した成川綾さん。この活動を今日まで続けてきた理由を伺いました。

1. クラウドファンディングを経て発行された「府中子育てマップ」。おでかけ情報満載で第13回キッズデザイン賞を受賞 2. 代表の成川綾さん 3. 2019年9月の情報交流会「入学ラウンジ」の様子。子どもと一緒に参加できる（写真提供：ママチャーリーズ） 4. ママチャーリーズのメンバー（写真提供：府中市市民活動センター プラッツ）

きっかけは市民講座

2008年初め、成川さんはスクエア 21・府中市女性センター（現府中市男女共同参画センター フューチャー）での「女性のためのライター講座」を受講します。託児を利用し一人の時間を持たかった成川さんですが、いざ受講すると慣れないことの連続。苦労を共にした受講者同士の結束は高まり、一緒に何かしたいと思ったそうです。メンバーの多くが、市内の子育て情報収集に困ったという共通の経験をきっかけに、子育て情報を必要としているママたちに届けようと、同年4月、ママチャーリーズを立ち上げ、翌2009年4月にホームページ「てくてく府中」を開設します。サークルのような形ではじめた活動も少しずつ広がり、2010年に発行を開始した妊婦・乳幼児向けのイベント情報誌「てくてくひろば」は、市内の文化センターなどで誰でも手にすることができるようになり、企業との協働事業も経験しました。

新たなメンバーとの出会い

一方で、活動メンバーは減少します。「てくてく府中」で発信する情報は、《今、自分たちが知りたいこと》という視点で、実際にメンバーが足を運んで取材したもの。子どもの成長に伴い発信内容との距離が生まれたのです。一時は2名体制になりますが、「てくてく府中」更新と「てくてくひろば」発行だけは継続しました。2016年頃から、成川さんたちのもとに「私も活動したい」という問い合わせが来るようになります。様々な志を持ったメンバーが加わり、活動の幅が広がりました。「こんなことがしたい」「こんなのがあったら」多彩なメンバーの会話から、新たな企画の種は生まれます。「思い立ったらまず行動」には反省点も多いそうですが、その行動力こそがママチャーリーズの原動力。保育園さがしの疑問に答える「保活カフェ」などの情報交流会、メンバーの強みを活かしたヨガ講座「mamaYoga」や、ママのための健康講座「ソーレ！」など、様々なイベントが開催されています。

伝えたい つながりたい

2018年、「子育てファミリーの居場所づくりのお手伝いをしたい。楽しいお出かけや笑顔が増えたら。」という思いから、「府中子育てマッププロジェクト」を立ち上げます。市民の声でつくるマップを制作しようと、同年11月の府中市民協働まつりでマッピングワークショップを実施。寄せられた情報をもとに「府中子育てマップ」を制作し、完成したマップは、2019年5月より市内で配布されています。

2020年には、市内9か所ある子ども食堂を支援するプロジェクト「すまいる」を開始し、市民と食堂の橋渡しをサポートしています。「あったらいいな」で終わらないのは、「目の前に何かできる人がいて、必要としている人がいて、それを支援したい人がいる。」の見えるから。「ママチャなら、と言ってもらえる団体であり続けたい。」と、さらなる飛躍のために、2020年度中のママチャーリーズの法人化を予定しています。

府中市の子育て情報にお困りの方はぜひ、「てくてく府中」にアクセスしてください。探していた情報が見つかるかもしれません。

取材・文：温水 史恵

Information

ママチャーリーズ
てくてく府中

H P <http://www.tekutekufuchu.com/>

府中の魅力を動画で伝えたい



府中動画配信部

代表 西郷 匠 さん

子育て世代やリタイア組が活躍することが多い市民活動の中で、2020年3月、大学3年生で任意団体府中動画配信部を立ち上げた西郷匠さん。市民活動に参加したきっかけや動画配信への思いについてお話を伺いました。

1. 西郷匠さん（紅葉丘の148 ゆめたまにて）2. 打合せ後にプラッツで動画の編集作業 3. 本目の配信動画から（引用：YouTube「#1 府中動画配信部 始動!!」<http://youtu.be/znx7qDG9KUI>）4. プチナッチェ - 府中子どもマルシェ会場で動画の中継作業

始まりは府中子ども劇場、そして市民協働まつりへ

なぜ若いのに市民活動をする？という投げかけに「よく聞かれますが、自分自身は市民活動をしているという意識は特に無く、楽しいからやってるんです」と答える西郷さん。ご両親も地域に貢献する市民活動に携わっていて、子どもの頃は府中子ども劇場が開催するワークショップやイベントに親しんでいました。大学生になった2017年、同団体が主催する「府中ふれあい子どもまつり」にボランティアとして参加した際に子ども劇場で遊んだりキャンプをした友達と再会します。更におはなしキャンプが主催する「読み聞かせフェスティバル」のボランティアなどを通じて様々な市民団体の方とも出会いました。2019年には府中市市民活動センタープラッツから誘われて企画委員として「府中市民協働まつり」の運営にたずさわるようになります。その後、「府中ミライ会議」に参加して府中の未来について話し合う中で「すごい活動をしているのに発信をしていない。発信したいのにやり方がわからない団体が多い」と気づきます。この思いが府中動画配信部立ち上げのきっかけになりました。

府中の魅力を伝えたい 立ち上げた団体が動き出す

動画配信で貢献できるかもしれない。西郷さんは映像制作やプロデュースにもともと興味がありました。「自分が面白いことをするためには自分で団体をつくらう」と決意し、2020年3月30日、任意団体府中動画配信部が産声を上げます。メンバーは2人。早速、YouTubeに1本目の動画をアップしてメンバー募集と活動開始を宣言しました。メンバーも揃い府中動画配信部が動き出した矢先、4月7日には新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発出され、すべての計画がストップします。6月までの制作動画は0本でした。ところがここで転機が訪れます。

プラッツが企画したオンラインイベント「動画で家の中の生活を楽しくし隊」に動画編集で協力することになったのです。コロナ禍で動画編集の需要が高まり、5団体29本の動画の編集、配信をサポートしました。「タイムリーな立ち上げになったね、と多くの方から言われました」。そう西郷さんは振り返ります。

市民団体をつなげて面白いことをしたい

府中動画配信部は現在、3つの活動を軸にしています。

1. 自主制作動画の配信
2. 他団体の動画作成サポート
3. 企画・プロデュース

当面は11月の市民協働まつりに取り組み、来年以降は「JAZZinFUCHU」や府中のラグビーチームへの取材など府中の魅力を発信していく予定です。「将来的には府中の動画なら動画配信部と言われるような見るとつくる側をつなげる動画配信のプラットフォームをつくりたい」と夢は広がります。更に「動画の制作やサポートを越えて団体と団体をつなげる企画やプロデュースをしたい。面白いことが増えていけば動画で伝える機会も生まれてくる」と西郷さん。取材後、私は様々な世代が市民活動を楽しみながら輪を広げていく、そんな府中の未来を想像していました。西郷さんの若い視点で府中をますます魅力的にしていきそうです。

取材・文：平田 誠

Information

府中動画配信部

MAIL fuchudogahaishinbu@gmail.com

「やりたい」を話し実行に移す場所 市民の広場 プラッツ



府中市市民活動センター プラッツ

府中駅前ビル「ル・シーニュ」5階、絶好のロケーションにある「府中市市民活動センター プラッツ」。オープンして約3年、市民としてはもっと知って、もっと使いこなしたい。コロナ禍からの新しい取り組みも踏まえて「プラッツ活用術」を職員の今池真能さんに伺いました。

1. 5階受付には感染予防のクリアな壁があるが、対応には差し支えない様子 2. フリースペースで取材を受けてくれた今池真能さん。ここにもクリアな壁が用意されているので、安心して利用できる 3. たくさんのチラシが並ぶ。手に取ったら受付にも寄ってみよう

「やりたい」を尊重する

何かやりたい、始めたい、そう思ったけれど、時間が過ぎていた。このような経験はないですか。「やりたいな、で止まってしまうともったいない」と今池さんは話し始めてくれました。「何か始めたい、面白い情報はないか、とプラッツに来る方は多いと思います。棚に並ぶたくさんのチラシを見て興味のあるものを手に取り、フロア内を見渡す。ここで、帰らずに受付に声をかけてほしいです」。そう言われても忙しそうな受付を見ると、聞きたいこともはっきりしていないし、また今度…、となってしまう。そう伝えると「僕は仕事の中で一番大切にしたいことは来てくれた方と話すことだと思っています。お話しすることでやりたいことが見えてくる、そんなことがありますよね」。確かに、胸の中にあるはっきりしない思いが、話しているうちにモヤが晴れるように感じた経験がある。そうか、まだまとまらない気持ちだとしても、とりあえず受付に寄ってみようか。

「やりたい」をつなぐプラッツ

受付での対応について聞いてみると、「初めてプラッツに来られたおじいちゃんが『僕ね、写真をやっているんだけどね』って話し始めて、聞いていると、写真展で賞を取るほどの腕前でした。どんな写真を撮っているのか、お仲間がいるのか、など聞くことができればその方の『やりたい』をつなぐ団体や講座、人をご紹介できるかもしれない。僕はこうしてつなげていく経験も積んでいきたいです」。確かに私もチラシを見て興味を持った講座に参加、そこで知り合いになった職員さんから、「市民ライター講座が始まるけれど興味ある？」と声をかけてもらい今こうして、記事を書いています。プラッツへの最初の一步を踏み出すと、『やりたい』がつながる経験を私もしていました。

コロナ禍による新しいスタイル

プラッツの事業部門（講座やイベントの企画運営、市民活動相談など）は多摩地域の多くの行政と協働で長年にわたり市民団体の活動支援をしてきた NPO 法人エンツリーが運営しています。オンライン化への取り組みも早く、他市の市民活動センターなどからその方法を学びたいと連絡もあったそうです。現在（2020 年 10 月時点）の講座などの状況を聞くと「オンライン講座とリアル参加かオンライン参加かを選べる講座があります。他には、ボードゲーム大会や大学生が小、中、高校生に無料で勉強を教える勉強カフェは、オンラインで開催しています」。今回私が参加したライター講座は、オンラインかリアルか、受講者が決めて参加することができました。この新スタイルはすぐに満席になったそうです。取材を受けてくれた今池さん。気負いは感じず、のびのびと仕事をしている様子でした。若い彼と話していると、これが新スタイルなのかもしれない。よし、私も気軽にやってみようか、そう素直に思えた取材となりました。

取材・文：丸橋 雅子

Information

府中市市民活動センター プラッツ

運営団体：府中市市民活動センター運営グループ

（構成団体：（公財）府中文化振興財団 NPO 法人エンツリー）

開 館 8：30～22：00

住 所 府中市宮町 1-100 ル・シーニュ 5,6 階

T E L 042-319-9703

H P <http://www.fuchu-platz.jp/>

たすけあいの輪で 産前産後家庭サポートを行う



府中たすけあい ワーカーズぽ♡ぽ

「府中たすけあいワーカーズぽぽ」は赤ちゃんから高齢者まで援助を必要とするすべての人へ自立支援など様々な支援を行い、府中市より産前産後家庭サポート事業の委託も受けています。現在、特にニーズが増している産前産後のサポート。実際にどのような援助を行っているのか、お話を伺いました。

1. お話を伺った栗原葉子さん(左) 皆川和子さん(右) 2. ぽぽの事務所 3. 研修風景(写真提供:ぽぽ)

すべての家庭を助けたい

地域に助け合いの仕組みをつくりたい―「ぽぽ」はそんな願いで設立されました。ケアの提供者は全員家事や育児の経験者。年齢・性別などに関わらず支援を必要とする人へ、様々な支援を行っています。設立当時、気軽に利用できる公的な育児サービスがなく、産前産後のお世話や共働き家庭からの支援依頼が多い状況でした。そんな中、府中市からの要望で多胎児家庭への支援が事業として始まり、その後さらに多くの家庭への支援を目指す現在の産前産後家庭サポート事業となりました。

家庭全体の支援を

「ぽぽ」の産前産後家庭サポートは、家庭全体の支援を目指しています。育児のお手伝いのほか、家族が安心して生活ができるよう掃除やごはん作りなども行います。お母さんにリフレッシュしてもらうことも大切な支援です。出産後のお母さんは、ほとんど休む間もなく慣れない赤ちゃんのお世話をしなければなりません。気軽に外出もできず、一人で不安を抱え込みやすい時期です。そのため、お母さんの声を聞くことも大事にしています。お母さんの話を聞き、そしてお母さんにとって必要と思われる情報を提供し、様々な制度を知ってもらいます。「お母さんが安心して笑顔になることで、家庭全体の支援につながると信じています」と代表の栗原さんは話します。

質の良い支援が提供できるよう

新しく入ったメンバーには対人技術などの研修を行っています。ほとんどのメンバーに育児経験はありますが、安心してケアに入れるように、改めて沐浴や調理研修を行います。調理は特に個性がありますし、それぞれの家庭に合う味や切り方などができるようにしています。

ケアを開始する前には、コーディネーターと家族が話し合い、援助内容を確認します。でも、予定通りにいかないのが子育てです。お母さんが困っていれば、臨機応変な対応ができるよう心がけています。

たすけあいの輪を広げたい

今まで誰かに助けてもらったから、今度は自分が援助を必要としている人を助けたい、育児・家事の経験を社会に活かしたい。そんな思いを持った46人のメンバーが集まり、力を出し合って活動しています。実際に「ぽぽ」から援助を受け、今度は提供者となって活躍している人もいます。「同じ思いを持った人にさらに出会いたい、また援助を必要としている人に『ぽぽ』をもっと知ってもらいたい」と栗原さんは話します。さまざまな活動を通じて助けあうことの大切さを感じてもらうことで、たすけあいの輪がさらに大きくなっていくことを私は願っています。

取材・文：やよい

Information

NPO・ACT 府中たすけあいワーカーズぽ♡ぽ

H P <https://www.popo-act.org/>

受講生紹介

市民ライター講座を終えて



池上 悦子さん

世界がコロナ一色に染まり、人生の歩みが停まってしまったかのような中、ふと目に留まったのが「市民ライター養成講座」の案内でした。プロのライターに教えてもらえる、これが魅力で、軽い気持ちで申し込んだ講座でしたが、回を重ねるごとに「記事を書いて出す」ことの難しさを感じるようになってきました。でも、受講仲間や、プラッツの方、インタビューに応じてくれた方々の協力でこうして発表することができたことはとても嬉しく思っています。ありがとうございました。

亀谷 のりこさん

この講座での収穫は、初めて「府中市民で良かった!」と思ったこと、そして多くの素敵な人たちと出会えたことです。今まで気がつかなかった府中の魅力を知り、大好きになりました。最初の講義で先生から「自分がどう生きていきたいかを考えてみて」と投げかけられ、私は理解ができませんでした。しかし、必死に課題をこなしながら、知らずに心の奥にしまいこんでいた、好きなものや子どもの頃の楽しい思い出が蘇ってきて、気づくと「私はどう生きていきたいか」と考えていました。まさに人生観が変わりました!出会いに心から感謝です。

伊藤 薫さん

以前から書くことに興味はありながら、自分で何かを発信することには恐怖心がありました。しかし今回、先生のご指導やプラッツの方々の支えのもと、ようやく一步を踏み出せました。一度は「完成!」と思った記事が、校正や意見をいただきながら全く別の姿になっていく。そんな過程も面白く、ものづくりの苦労と楽しさも味わいました。お世話になった北原先生、プラッツ職員の方みなさま、ご縁ができた受講生のみなさん、そして「この活動を応援するために書きたい」と心から思えるお話をしてくださった篠崎さん。本当に有難うございました。

川島 清夏さん

数年間、子育てしかして来なかった私が久しぶりに何かを始めてみたいと思っていた時に目に止まったのがこの講座です。軽い気持ちで始めてしまったために、最初の講座から私にできるだろうかと不安な気持ちにもなりましたが、講師の北原まどか先生の「きっと、できますよ。」という言葉に支えられて、最後までやり遂げることができました。講座に参加するなかで、新しい発見や出会いもあり、最後までやり遂げた達成感でいっぱいです。また自分に出来そうなことを探したいと思えるような、次につながる出来事になりました。

小川 理恵さん

記事を初めて書いた。テーマと取材先を決め、取材をして、文章にして、講師や仲間からフィードバックをもらい校正して最終稿を提出した。やったことをまとめるとこれだけ。ただ、たったこれだけのことをするのに、自分の本当に伝えたいことは何かを問いつけ、時間のやりくりにてんてこ舞いになってあたふたする中、たくさんの人に支えられた。記事が書けたこともだけど、この経験が何よりの宝物だし、次の記事を書く原動力になると強く感謝している。

崎山 美穂さん

今まで通り過ぎていただけの景色のどこかにいる、誰かのため、何かのために活動している人たちの思いを、それを必要とする誰かに届ける手伝いができたらいいな、そんなことを考えてこの講座に申込みました。久しぶりに踏み出した自分のための一歩でしたが、始めてみると内容が思っていたよりも実践向きで、無茶をしたかなと後悔もしました。それでも何年かぶりに味わうピリッとした緊張感、人に認められた時の達成感、沢山のひととの嬉しい出会いがありました。大変だったけど挑戦してよかった、が私の率直な感想です。

シニア・のこさん

私は「市民ライター」という存在をうかつにも知らず、「市民のためのライター講座」かと早とちりして申し込みをしてしまいました。この勘違い大袈裟ながら神に感謝の心境です。編集者として長く働いてきたものの、母の介護ですっかり現場から離れていたため、最近はメールすらおっくうになっていました。さて講座、初日から北原先生の大ファンに。プロ育成講座の水準、いやそれ以上で感服いたしました。そして受講した仲間たちが素敵な面々でした。この講座に感謝!です。

チバヒロコさん

参加できて本当に良かったです。全6回の講座で毎度もれなく設けられたスピーチタイムは大の苦手でしたし、生まれて初めての取材にたった一人で行くのは不安でしたし、大人になってからこんなにも連続して苦手なことへ挑戦する機会はなかったので刺激的な日々でした。他の参加者のみなさまからは私が知らなかったことや素敵な考え方をたくさん教えていただきました。文章の書き方だけでなく取材者として大切なことを幅広く教えてくださった北原ほか先生、サポートしてくださったブラッツ職員のみなさまに感謝の気持ちでいっぱいです。

平田 誠さん

自分自身が参加している市民団体でかわら版を発行することになり、スタッフとして四苦八苦している時にこの「市民ライター養成講座」に出会い、渡りに船とばかりに参加しました。北原先生の実体験に基づいたお話は大変興味深く、文章を書いて発信する事の大切さと記事への責任を学びました。また、実際の取材、原稿づくりでは緊張しながらもライターとしての充実感を味わいました。楽しく、そして前向きに取り組む貴重な時間をいただき、北原先生、ブラッツの皆さん、そして受講生仲間の皆さんに感謝いたします。

鈴木 アサコさん

普段の生活で全く文章を書いていないので、実際に原稿を書いてみて、文章で何かを伝えることの難しさを思い知りました。これを機にいつか苦手意識がなくなるように、細々とでも書くことを続けていけたらと考えています。取材をさせていただいた府中子ども劇場の活動は、演劇好きとしても、育児中の母親としても、知ることが出来てとても良かったです。原稿作成は苦しかったですが、一緒に講座を受講したみなさんは面白い方ばかりで受講中はとても楽しく過ごせました。またみなさんと一緒に何か出来たら良いと思います。

戸田 憲子さん

軽い気持ちで参加してみると、その内容の濃さとハードルの高さに、楽しくもいい意味で緊張感あふれる講座でした。私が取材させていただいた子ども食堂のフードパントリーという取り組みは、広く伝えたいと思いつつも様々な制約がある中で紹介だったのでそこが難しかったのと、何よりそれを制限文字数に収めなくてはならない作業が大変でした。ただ、その苦勞の分、完成も楽しみです。皆さんとの時間とこの経験は、とても有意義なものでした。本当にありがとうございました。この経験をまたどこかで活かせることを期待しつつ、感謝を込めて。

丸橋 雅子さん

誰かの役に立つ情報を書けているのか、そう思っではテキストを確認し書き直す。その作業の繰り返しでした。取材し記事を書くまでの市民ライター講座は、正しい記事の書き方、取材の心得、そしてライターの思いの表現方法にまで及んでいました。講座では苦手だった「自分の思いを書く方法」を学び、取材を通じて「何事にも気負いなくやってみる」を学びました。北原先生、ブラッツ職員の皆さまには心から感謝を、そして講座仲間の皆さまには感謝とともに今後ともよろしくお伝えしたいです。充実の講座をありがとうございました。

Sumieさん

「なんだか楽しそう」と、とても軽い気持ちで応募してしまいましたが、始まってみるととても丁寧な説明であったり、ペアインタビュ体験をしてみたりと、本格的な、まるで「記者」養成講座といった感じで驚きの連続でした。北原先生をはじめ、ブラッツのスタッフの方々が最後の最後まで懇切丁寧にご指導下さり、おかげさまでどうにか仕上げることができました。感謝申し上げます。また楽しそうな企画のお知らせが届くのを楽しみにしております。

温水 史恵さん

「鏡文?撮影?まさかこんなことになるとは。」第1回の講座から約2か月、沢山のハテナと少しの後悔が渦巻くなか、人生初の取材と原稿作成に四苦八苦しました。それでも、並走した受講仲間との出会いと支えが「少しの後悔」を前向きなものにしてくれました。お忙しいなか取材にご協力いただいた成川様、新たな世界に導いてくださった先生、withコロナ対策にも苦慮しながらサポートして頂いた職員の皆さまには、深謝いたします。今回の学びと得られた視点を、今後、府中市の魅力の発見と発信に繋げられたらと思います。

やよいさん

もともと興味のあったライター活動。でも執筆などの経験はなく、何から始めてよいのかわかりませんでした。そんな中、偶然府中市の広報誌でこの講座のことを知り、すぐに申し込みました。市民ライター講座は座学だけでなく、実践も行います。実際にアポイントを取り取材をし、記事の作成を行います。本当にドキドキと不安の連続でした。でもほんの少し前までは何をすればよいかわからなかった状態だったのに、今は一つの記事を作り上げることができ、ようやく一歩を踏み出せたような気がします。

発行年月日 2021年1月15日

市民ライター養成講座 修了作品集

発行責任者 館長 吉田恭子

©2021 府中市市民活動センター プラッツ



府中市市民活動センター プラッツ

TEL 042-319-9703 / FAX 042-319-9714

MAIL info@fuchu-platz.jp HP <http://www.fuchu-platz.jp/>

〒183-0023 東京都府中市宮町1-100 ル・シーニュ5、6階
(京王線「府中駅」南口直結)